

製品名: c-Fos (リン酸化 Ser374) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04448**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	FOS
別名	FOS; G0S7; Proto-oncogene c-Fos; Cellular oncogene fos; G0/G1 switch regulatory protein 7
遺伝子 ID	2353.0
SwissProt ID	P01100
免疫原	抗血清は、Ser374 のリン酸化部位周辺のヒト Fos 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 331-380

背景

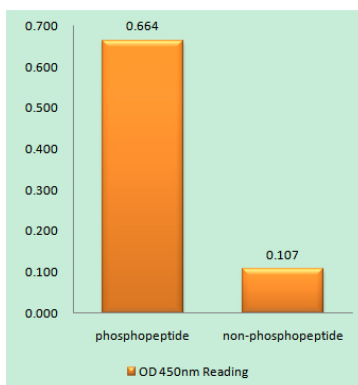
Fos 遺伝子ファミリーは、FOS、FOSB、FOSL1、FOSL2 の4つのメンバーから構成されています。これらの遺伝子は、JUN ファミ

リーのタンパク質と二量体を形成し、転写因子複合体 AP-1 を形成するロイシンジッパータンパク質をコードしています。そのため、FOS タンパク質は細胞増殖、分化、および形質転換の調節因子として関与していると考えられています。場合によっては、FOS 遺伝子の発現がアポトーシスによる細胞死と関連付けられることもあります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: JUN/AP-1 転写因子と強固だが非共有結合的な複合体を形成する核リン酸化タンパク質。ヘテロ二量体において、c-fos と JUN/AP-1 の塩基領域はそれぞれ、対称的な DNA の半分の部位と相互作用するようです。骨格の形成と維持を担う細胞の発生を制御する上で重要な機能を持っています。シグナル伝達、細胞増殖および分化において重要な役割を持つと考えられている。、PTM: SUMO1、SUMO2、SUMO3 によって恒常的に SUMO 化される。SEN2 によって脱 SUMO 化される。SUMO 化には JUN とのヘテロ二量体形成が必要であり、マイトジェン刺激によって促進される。SUMO 化は AP-1 転写活性を阻害し、それ自身が Ras 活性化 Thr-232 のリン酸化によって阻害される。、PTM: 神経成長因子 (NGF) および上皮成長因子 (EGF) による刺激により C 末端がリン酸化される。in vitro では MAPK および RSK1 によってリン酸化される。MAPK1/2 および RSK1/2 による Ser-362 および Ser-374 のリン酸化はタンパク質の安定化につながり、NGF 刺激によるタンパク質安定化の主な部位は Ser-374 のリン酸化である。Ser-362 および Ser-374 のリン酸化は、MAPK の DEF ドメインへのドッキングを促進することにより、Thr-325 および Thr-331 のさらなるリン酸化を誘導する。HA-RAS によって誘導される Thr-232 のリン酸化は、転写活性を活性化し、SUMO 化を阻害する。骨芽細胞における RSK2 による Ser-362 のリン酸化は、骨芽細胞の形質転換に寄与する。、類似性: bZIP ファミリーに属する。、類似性: bZIP ファミリーに属する。Fos サブファミリー。、類似性: 1 つの bZIP ドメインを含む。、サブユニット: JUN とヘテロ二量体を形成する。DSIP1 と相互作用し、活性型 AP1 の標的 DNA への結合を阻害する。MAFB と相互作用する。、

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;Toll_Like;T_Cell_Receptor;B_Cell_Antigen;がんにおける経路;結腸直腸がん;

画像データ



Fos (リン酸化 Ser374) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)